

平成 29 年度 第 1 回近江八幡市子ども・子育て会議 要録

日 時 平成 29 年 7 月 7 日（金）午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分
会 場 総合福祉センター「ひまわり館」2 階 研修室
出 席 委 員 ◎中川 千恵美委員、○小西 ひとみ委員、
竹下 秀子委員、山下 亜由美委員、高野 徹夫委員、高塚 博樹委員、
小林 優子委員、川橋 袖子委員、榊原 かず子委員、伊藤 左登美委員、
重野 弘樹委員、河村 加恵委員、杉本 僚子委員、田中 留美委員、
佐野 淳子委員、久家 昌代委員、安川 千穂委員
(欠席) 田中 裕喜委員、中江 栄理香委員、福永 利明委員、
前出 みずほ委員

◎：会長等、○：副会長等

傍 聴 者 0 名

議 題 (1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
(2) 中間見直しの作業について
(3) 小規模保育事業の整備について
(4) 放課後児童クラブの整備計画について

決 定 事 項

教育・保育給付対象事業と、放課後児童健全育成事業の見込み量については、再度、それぞれ実態を踏まえて精査し、確保方策とともに次回に提示すること。

議 事 詳 細

1. 開会

2. 会長挨拶

(会議の開催にあたり会長より挨拶)

会長 子ども・子育て支援事業計画の見直し年であり、中身を議論していく。そんな中、委員の皆さまも、近江八幡市の当事者、保護者、支援をされている皆さんとして、我が事、自分自身のこと、自分たちのことという形で、広がっていけばと思う。子どもの育ちやその家庭への支援が、自分たちにとって、地域にとって、大切なことだと繋がっていけばいいなあと思う。ほっとけない気持ちを、自分が暮らす地域の中に、どうやったら持っていけるのか、どういう仕組みや仕掛けをしていくと浸透していくのかなあと感じている。子どもたちへの眼差しや関わりが、子どもや子育て当事者にとってどうなのかということを、改めて見直し年の 1 年間に考えていただ

いて、次年度につなげていきたい。

本日の議事の中で会議を公開することに格別の支障となる事項はないように思うので、公開としたいと考えるが、委員の皆さんよろしいか。

(異議なし)

それでは、近江八幡市会議の公開に関する取扱要綱第4条の規程に基づき、本会議は公開とすることを決定する。

3. 議事

(1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

(事務局より、児童福祉の状況、事業計画の進捗状況について説明)

(説明概要)

平成28年度の児童福祉の現状と経年変化、事業計画の重点施策の事業評価、各課の取り組み進捗・達成度を報告した。

委員

学童保育の施策の中で、低所得者に対する助成を独自の制度でやっているの、成果として挙げても良いのではと思う。また、大規模な学童や、施設定員120%受け入れの学童もある。この状況で達成度Aとは、解消への不安を抱えている現場の思いとはちょっとズレがある。

委員

地域の子育て支援の活動を以前からボランティアさんが頑張っているの、他市町と比べて評価をしても良いのではないか。

委員

子ども発達支援センターの発達相談の件数が倍以上に増えているが、悩まれている方が多いのか。

事務局

発達相談の件数は、就学前の子どもたちは急激には増えていないのですが、就学後の小学校から18歳の高校生までの相談件数が増えています。ただし、延べ人数ですので、相談ケース人数が倍以上になったという訳ではありません。

(2) 中間見直しの作業 ①教育・保育給付対象事業の見込み等について

(事務局より、見込み量の見直し案について説明)

(説明概要)

平成28年度の利用実績を参考に、宅地分譲の状況などを踏まえて、簡易な推計にて見込み量を見直すことを説明した。

委員 1号認定児において、学区内施設の利用者数が、学区に在住している1号認定児の数より小さくなっているのは何故か。

事務局 私立に行かれています方もおられるので、逆転現象が起こりうる可能性があります。もう一度、確認させていただきます。

会長 見直しのプロセスは説明いただいたが、もう一度精査して、次回説明を。

(2) 中間見直しの作業 ②放課後児童健全育成事業の見込み等について
(事務局より、見込み量の見直し案について説明)

(説明概要)

学区別就学児童数の推移見込みに、平成29年度の学区別利用率を乗じた推計にて見込み量を見直すことを説明した。

委員 今よりも減る見込みであるが、学童保育を利用したい方はどんどん増えている実態がある。潜在的なニーズはもっとある。

事務局 計画から乖離しているのは事実ですが、利用状況が今後どうなるのかは図りづらいところがあります。委員の皆さんはどうでしょうか。

委員 入れる場所があれば、入りたいとおっしゃっている人はいる。学童が楽しいから入りたい、高いので考えているという意見もある。

委員 小学校3年生までは預けたい、4年生以降はお留守番が良いという子も実際にいる。夏休み期間をどう過ごすかは不安がある。

委員 120%で受け入れて、カツカツでやっているのに、現状の見込み数字が丁度良いですというのは、非常に感覚的な体感とは合わない。

委員 運営主体や、保護者へのヒアリングなど実情を踏まえた上で、当事者にとって納得ができる方向性、整備内容にする必要がある。何より、どういう理念で小学生の放課後を支援していくのか、積極的なプランが提案されていくことが、本来は望ましい。

会長 理念をどう考えるかを含み、もう一度、精査して、次回に報告を。

(3) 小規模保育事業の整備について

(事務局より、小規模保育事業の整備状況について報告)

(説明概要)

平成29年度の待機児童の状況、小規模保育事業及び認定こども園の開園準備状況、今後の整備予定について報告した。

委員 かなり定員を上回って入所している保育園があるので、今後、このような大規模なこども園ができることは、待機児童の解消につながるのではないかと。

委員 小規模保育を作ることは良いが、3歳児以降の保障について不安を抱えているお母さんが多い。後のことも考えて、計画をして欲しい。

委員 他の市で3歳児以降の予約制があるのは良いと思う。

事務局 全ての小規模保育事業所が連携園の協定を結んでいますが、連携園に必ず3歳の枠を確保するのは難しいところです。しかし、入所審査において地域型保育の卒園児には加点を付けて選考しています。今後、小規模保育が増える中、3歳児の受け入れは課題ですので検討します。

(4) 放課後児童クラブの整備計画について

(事務局より、放課後児童クラブの整備の方向性について説明)

(説明概要)

見込み量との乖離が10%を超え、かつ確保内容を超過している金田、桐原東、安土の3小学校区において、今年度に増設する方針を説明した。

委員 大規模化の解消、待機を出さないことは大事だが、子どもたちのより良い豊かな過ごしのためには、適した人数での整備を進めて欲しい。支援員の人手不足は深刻な状況であり、人材確保についても支援いただきたい。

会長 従事する人の確保は非常に大きな課題だと思う。事業者や利用者の意見を確認し、見込み量を精査した上で、地域の社会資源の活用を含めて、どう整備するか、どういうあり方で対応していくかを検討して欲しい。

委員 1クラブ当たりの人数や1年～6年生まで利用している状況、指導員の確保など運営の中身も精査した上で、整備して欲しい。

委員 | 子どもさんの居場所というよりは、何かあったときの頼り先として高学年になっても学童の存在が手放せない状況と、指導員も子どもの育ちを6年生まで見守りたい状況の中で増えていっている。子どもたちの居場所のため、みんなで打てる手立てを打っていくことが必要である。

(5) その他

(事務局より、意見書の提出依頼、少子化対策の取り組み等について説明)

(説明概要)

中間年に当たり、計画策定時のニーズ調査において尋ねている子育て環境への評価等について、市政モニター制度を活用して再確認し、次回の会議にて報告することを説明した。

4. 閉会挨拶

(会議の閉会にあたり副会長より挨拶)

副会長 | 今回の議題でもハード面はしっかりとできていくが、保育士や学童保育所の指導員も不足している中で、ソフト面の充実も頑張ってください。今年度からの委員の皆さまも、いろいろとご意見をお願いしたい。

閉会